

団体名	長崎留学生支援センター							
事業名	長崎市民と長崎地域の大学等の新入留学生、日本人学生に対する平和学習及びバスハイク							
実施期間	6月3日(土曜日)、11月11日(土曜日)							
場 所	長崎大学 中部講堂、長崎原爆遺跡、長崎原爆資料館、長崎歴史博物館							
参加者数	外国人留学生	その他外国人	日本人学生	地域住民	スタッフ	大学関係者	来場者等	合計
	466	10	17		16	29		538名

### <実施内容>

平成29年6月3日(土)及び11月11日(土)、長崎平和大学が開催され、日本を含む43ヶ国・地域からの学生計483名が参加した。長崎大学中部(なかべ)講堂で行われた午前の部では、「ナガサキの少女少女たち」のDVD上映後、被爆体験講話を聴きました。11月11日に爆心地から500メートル地点の城山町で被爆した奥村アヤ子さんを迎え、当時の自身の体験を語った。8歳で被爆し、家族の中で一人だけ生き残って苦しみと悲しみを抱えながら懸命に生き抜いた様子を、時に涙をこらえながら語る奥村さんの姿に留学生も強く心打たれたようだった。日本人学生・ベトナム人留学生との質疑応答での、「皆さんも自分に負けず生きてほしい」という奥村さんの言葉は特に印象的だった。

午前の部終了後は、長崎港の長崎水辺の森公園に移動し、昼食をとった。天候に恵まれたこともあり、皆芝生や海辺で楽しいひと時を過ごしていた。昼食後は、公園内の各所で様々なポーズを取って写真撮影を楽しむ学生が見られた。

午後の部では、2班に分かれ被爆遺構巡り(平和公園・原爆落下中心地公園)と、原爆資料館を見学した。被爆遺構巡りでは、留学生たちが各言語による平和案内人(ボランティアガイド)の皆さんの説明に熱心に聞き入っていた。防空壕跡での説明の際には、一人だけ生き残った少女の話に息をのみ声をあげる学生も見られた。平和祈念像のポーズの意味や新聞記事の切り抜きを使用した説明などもあり、充実したガイドによって多くのことを学んでいた。長崎歴史博物館の常設展では、留学生が長崎の海外との古くからの交流を示す資料を熱心に見入っていた。また館内の江戸時代の長崎奉行所立山役所で行われた当時の裁判の寸劇は、多くの留学生が興味深く見学していた。日本語をほとんどわからない学生は寸劇の内容を関係者に尋ね、皆当時の奉行所の雰囲気を楽しんでいた。寸劇終了後、出演者との写真撮影のサービスでは留学生が列をなしていた。

### <記録写真>



平和公園での見学



交流時間



長崎歴史博物館での見学

### <参加者からのコメント>

匿名	匿名
今回の活動で、長崎の歴史と原爆の恐ろしさについて詳しく教えてもらった。知らなかったことも含め、もっと深い意味が理解できた。原爆講話者の講座を聞いて、私智は平和のために努力しないといけなく、現在幸せな生活を大切にしないといけなく思った。	戦争があって、いくら大変になっても、悲しくても、あきらめずに頑張っている日本人がすごいと思う。平和の大切さが分かった、歴史は切ないけど、今後の美しい生活のために、もっと頑張らないといけないと思う。